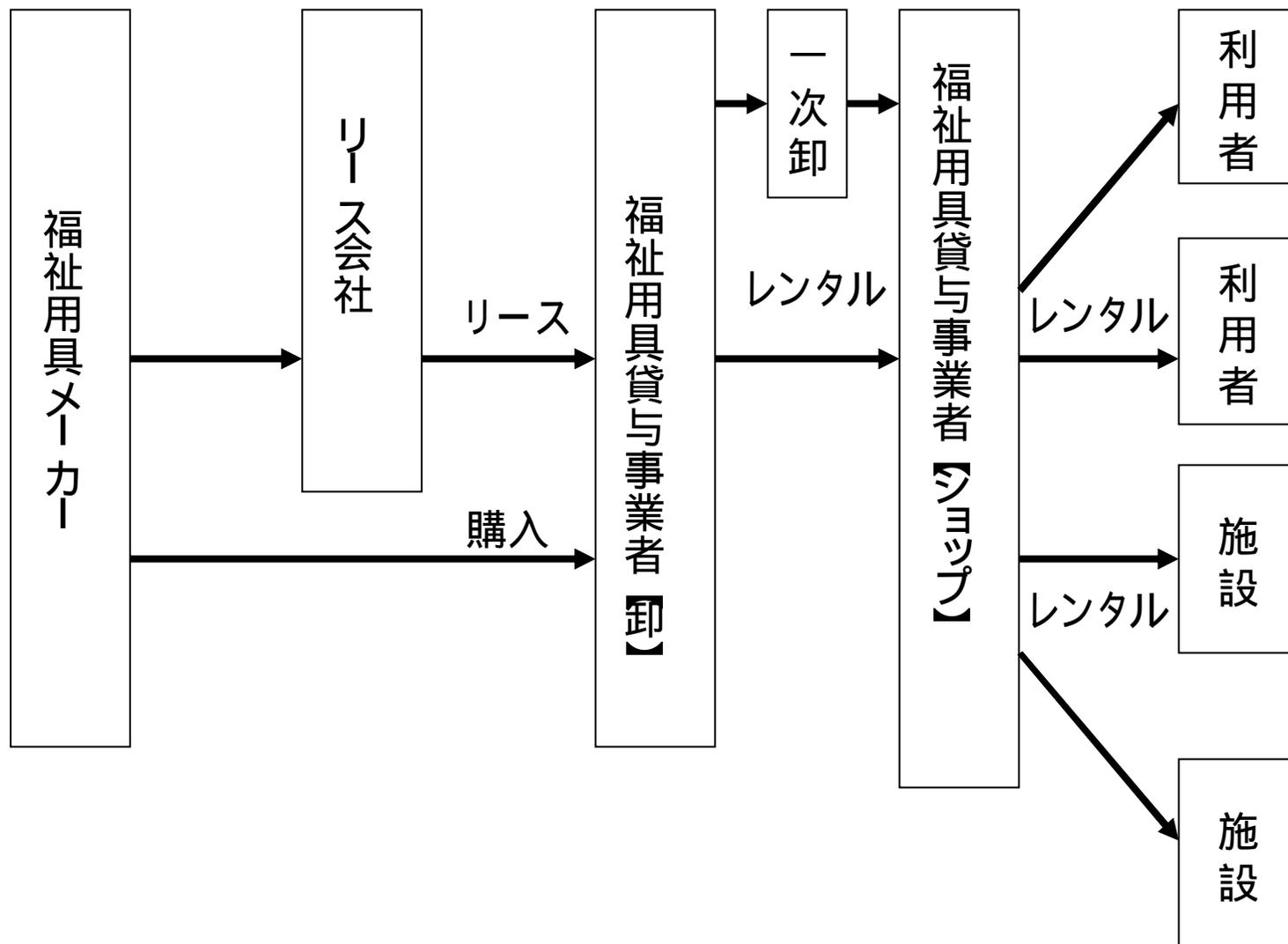


福祉用具レンタル制度の流れ



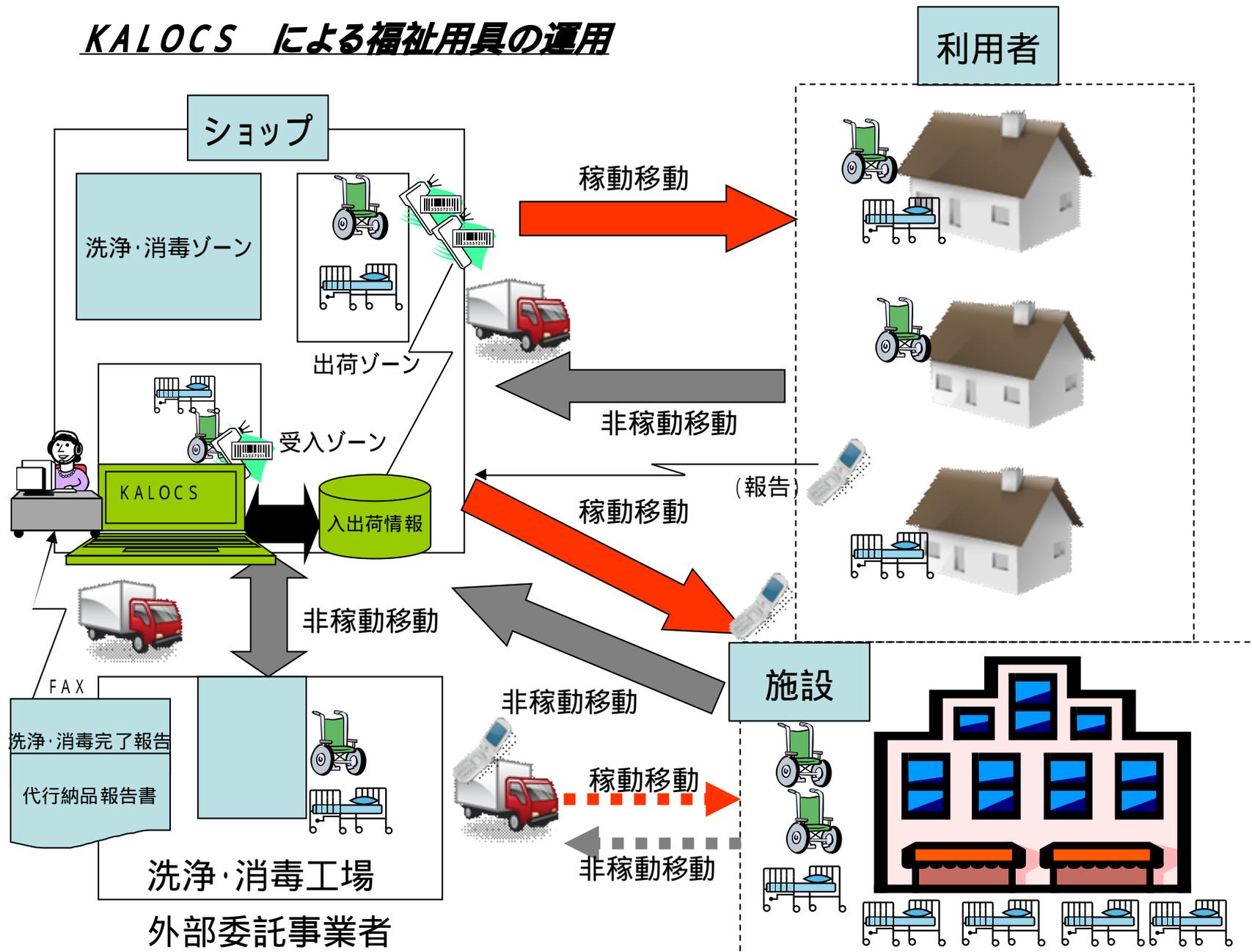
1. 福祉用具レンタル事業者(ショップ)の課題

- ショップは福祉用具を利用者に貸与することで収益を上げているが自社(購入・リース)調達した場合、大量の用具や付属品の管理がネックである
- 要員の体制以上の用具数を保有しており、その移動プロセスを考慮すると正確な管理ができない
- さらに自社調達した購入品とリース品の混在管理が要求される
- 利用者が変わる場合、用具の洗浄・消毒を義務付けられているが、自社保有した場合洗浄・消毒プロセスの状況把握が必要で、外部洗浄消毒事業者にアウトソーシングした場合にはさらに複雑な管理が必要となってくる
- 全利用者に対応するためには結局余分な調達になってしまう

課題解決のための条件

- システム投資コストを最小限に抑えるためできればパッケージ購入で対応したい
- 入出荷はバーコード管理を採用したい
- 第一段階は外注分(運送・洗浄消毒)は報告書類で事後入力(但し自社スペースからの入出荷時はバーコード対応)でも構わない
- 用品は全て単品管理(付属品も含む)
- 専任要員がないためオペレーションが簡単で時間も短時間での対応が可能であること
- 購入品もリース品も同時に管理ができること
- できれば全ての移動履歴管理をしたい

KALOCS による福祉用具の運用



2. どのように解決したか

- 1事業所での管理であったためKALOC S (スタンダード版)導入により低コストで実現、但し将来事業所展開時にはクライアントサーバー版にバージョンアップの予定
- バーコード読取も第一段階では最小限台数で対応できた
- データ登録は一括でデータ移行ができないため段階的に行った。システム導入時に稼働していない用具は運用開始時に登録。稼働中ものは用具回収時に未登録確認後に登録。新規導入分は随時KALOC S 登録することで解決。

3. どのように効果が出たのか

- KALOC S はとにかく登録さえしておけば後は殆どがクリックだけでよいので運用が楽で兼務対応で十分。バーコード管理でさらに正確さが実現した
- 全ての移動を的確に把握できるようになり、外注部分や自社内に保管中の物まで瞬時の確認が実現、利用者や営業からの問い合わせに的確に対応でき、用具の適正な運用が可能になった
- 個別に故障・修理履歴まで一元管理ができ今まで故障中の物を出荷時に判明し対応苦慮していたが全てデータ管理ができスムーズな運用が可能となった
- 複数のリース会社からの調達で満了時に間違っ返却することもあったが今後は的確に返却ができる
- 導入1年で対応が問題ないことから、さらに自社調達と事業所展開での事業拡張の目途がたった